

# スキップ

No.33

2013年9月14日

J R 東海労働組合

秋の闘いシリーズ④

## あらためて要求する！

- ◎ 駅の泊勤務は全ての駅で2名以上の体制とすること!
- ◎ 休憩時間においても2名以上の体制とすること!

駅で働く仲間の皆さん！

J R 東海労は2013年度基本協約・協定改訂の要求として「駅社員の要員増」を申し入れを行い、9月6日団体交渉を行いました。

しかし会社は「駅の体制については乗車人員や取り扱い収入を総合的に勘案しつつ決定している。セキュリティーについては、社員は会社の貴重な財産であることから、ハードについて対策を講じていく」と答えるのみで、乗車人員や取り扱い収入を基準にして、切実な要員の増配置要求を切り捨てました。

しかし現実には今年7月、武豊線の駅で深夜、強盗事件が発生しました。また中央線の駅では、乗客が駅事務室のドアを蹴って壊し、一晩中、駅社員一人で駅事務室の見張りを余儀なくされました。この二つの駅は一人の泊体制です。幸いにも両駅とも社員は無事でしたが、命の危険にさらされました。

さらに豪雨、地震、人身事故などによって、列車ダイヤが大幅に乱れた時には、どこの駅でも業務が輻輳しててこ舞いの状態ですが、特に一人体制の駅では、旅客案内、払い戻し、切符の変更、そして、本来の出改札業務を行わなければなりません。終列車の到着が大幅に遅れ、1～2時間しか休憩（睡眠）できず、「あ～こんな時にはもう一人いてくれたなあ～」という声が多く出されています。

最近では、駅のバリアフリー化が進み、車椅子の乗客の利用が増えてきています。その時、一人勤務の駅では出札窓口を閉めてホームに出場し、乗降のお手伝いをしています。その間は、切符の購入を待ってもらっています。

また、一人が休憩に入ったり車椅子の対応時、社員の補充がなく一人体制になる駅もあります。かなり乗車人員の多い金山駅の改札担当は、改札業務と何台もの券売機、精算機、改札機の対応行っています。券売機が詰まったり、券売機が故障したり、遺失物の捜索など、一人では対応できない状態の時もあります。

このように駅では、一人では対応できないことが数多く発生しています。その結果、乗客、社員が命の危険にさらされたり、サービスが低下し、苦情の原因になっています。

こんな時にもう一人いてくれたらなあ  
駅から聞こえてくる声……

皆さん、JR東海労HPを見ましょう！

J R 東海労

検 索